



## 風物詩となった 前夜祭の競演会

伊方の祭り

### 例

年、大型連休の伊方地区を華やかに彩る赤坂神社と白鬚神社の神幸祭。5月4日から2日間、各地域の隅々まで響き渡った祭囃子は、さつそうと町を練り歩く山笠と掻き手に合わせ、初夏の到来を雅な音色で伝えました。

神幸祭の前日にあたる5月3日には「山笠競演会」が行われ、子ども山笠2基を含む9基が公民館方城分館前に続々と集合。開演時はまだ日没前で白々とした空でしたが、紫の夕闇を経て、やがて、またたく星のように、さらびやかな電飾を浮かび上がらせました。広場では掻き手の勇壮さと山笠の絢爛さを競演する自慢の練り回しが披露され、2基ずつが山笠を上下に揺らす「がぶり」や傾かせたままの迫力ある旋回でおよそ5百人の観衆を魅了しました。

## 夕闇に浮かぶ電飾

福智町が誕生した年から始まった競演会は今年で4回目。伊方地区両神社による神幸祭の前夜祭として、すっきり定着した様相を感じさせました。

### 一一

年に一度、弁城地区の掻き手が待ちに待った祇園祭。伊方の祭りの翌週となる5月9日から2日間、福智山麓には太鼓と鉦がたたき出す(笛を加えない)祇園祭ならではの囃子がこだましました。

## 蒼天に流れる馬簾

その力強い囃子に勝るとも劣らない威勢のいい山笠は、福智山麓特有の高低差を感じさせることなく、岩屋神社裏の広場に整然とそろいました。5月10日の「山笠競演会」では、弁城の祭りを印象づける長い馬簾を揺らしながら、7基の山笠が豪快な練り回しを披露。夕日へと差しかかる強い日差しを浴びながら、山笠の金色に輝く飾りをいっそう際立たせました。

熱気を帯びつつも、やがて落ち着きを見せた競演会場からは、御輿が鳥居をくぐり、厳かに神事を終え、社殿へと納められます。伊方／弁城と2週に渡った祭りの活況は、徐々に平穏を取り戻し、明日への活力となって、地域のみなさんの心に、そっと宿りました。

弁城の祭り

## 福智山麓を彩る 隔年の山笠運行

